

近代日本の歩みと国際社会

福岡市公立中学校教諭

1

はじめに

本単元は、19世紀後半の開国と明治維新以後の我が国の歴史を、世界の動きとのかかわりの中で取り上げている。この時代の我が国の歴史は、外圧による開国以来、常にアジアや欧米諸国と密接な関わりをもちながら進展してきた。我が国は、ヨーロッパ近代社会をモデルとしてアジアの中でいち早く近代化に成功し、近代国家のしくみを整え、産業や文化を著しく発展させてきたといえる。

現行の学習指導要領は、近現代をひとつのまとまりとしてとらえ、江戸・明治という従来の時代区分をとらず、幕末の開国およびその背景となった欧米近代化の動きから現代までを一つの動きをもった時代として大きくまとめている。ここでは、世界の一体化が進み複雑な国際関係のなかで、我が国が近代化を達成し発展を遂げたこと、その歩みを「世界のなかの日本」という視野で多面的・多角的に理解させることが大切である。

近現代についての歴史学習では、資料が多様で情報も多く、とかく取り上げる事項が多くなりがちである。そこで本単元は、開国から世界大戦が始まる前までのおよそ60年間を、その内容から大きく次の4つに分け、はじめに学習する時代の流れをおおまかにとらえさせ、歴史的事象を政治、文化・社会経済の流

「近代日本の歩みと国際社会」

- ①欧米諸国の衝撃と日本
- ②新しい価値観のもとで
- ③国会開設の歩み
- ④アジアの日本から世界の日本へ

「中学生の歴史 初訂版」第5章より

れから、また、為政者・国民・諸外国とさまざまな立場より多面的・多角的に考察・理解できるよう学習計画を立てたい。

2

タイムスリップの活用

さて、生徒の実態であるが、毎年中学校に入学したときに歴史アンケートをとるのだが、実は幕末・維新の志士に詳しい一部の生徒を除き、きまって「明治時代は難しい語句が多い」「ごちゃごちゃしてわかりづらい」などを理由に興味を示さない者が多いという現実にもぶち当たる。本単元は、一般的に第2学年の初めに学習する学校が多いと思われる。生徒たちは学年が変わり、新たな気持ちで歴史学習にのぞもうとするこのとき、その期待に応えられるよう何とかせねばと教師の方も力が入る。近代の幕開けの導入はどうしたらよいか。前の時代を大まかにおさらいし、復習することも必要であろう。そして何より、「なぜ? どうして?」と生徒が疑問をもち、意欲的に追究ができるような学習課題に出会うことができるかが勝負となろう。かといって

教師からの一方的な課題提示や「復習テスト」や「まとめプリント」では生徒の興味は半減する。できれば、前の時代と新しい時代の特色やその劇的な変化が一度にわかるもの、つまり時代が「近世」から「近現代」に大きく変わったことを大観でき、そこにたくさんの「なぜ? どうして?」が詰まっている教材・教具がないものか。

ご存知、この帝国書院『中学生の歴史』では、すでに古代より「タイムスリップ」のイラストを通して、その時代の政治の展開、産業の発達、社会の様子、文化の特色などを具体的にイメージして学習を進めてきている。この「タイムスリップ」を活用して、近現代を大観し、生徒自らが適切な学習課題を設定する授業ができないものか。そんな思いで授業案を考えてみた。

3

近世から近現代へ（導入として）

ここでは、前单元「武家政治の発展と世界の動き」(近世)を振り返り、本单元と比較しながら、新しい時代を大観し、疑問点を出し合い、学習課題を設定する授業を紹介する。

<授業の展開>

(1) 近世の特色を簡単に振り返る



教科書p.112~113タイムスリップ!近世②

*帝国書院「絵・写真で読み解く日本の歴史写真ボード増補版」の写真は大きく、黒板に

掲示するとよい。

- ・ 武士の世の中
- ・ 鎖国政策
- ・ 身分制度があった
- ・ 江戸は町人を中心に活気があった
- ・ 泰平の世、文化や産業・交通が発達した
- ・ 社会が混乱し、改革が行われた
- ・ 外国船が接近してきた など

従来は、学習プリント等を使って想起させていたが、この「タイムスリップ」は前单元で1度使用していたこともあり、生徒の口からたくさんのことがらが発表された。

(2) 同じ江戸(東京)を表した近世の写真と比較して、近現代の写真からこの時代の特色を考える。



教科書p.146~147タイムスリップ!近現代①

①近世②のイラストと比較して、近現代①の絵から、特徴的なものをたくさんあげてみよう。

- ・ 馬車
- ・ 人力車
- ・ 鉄道
- ・ 中国人
- ・ ガス灯
- ・ 警察官
- ・ こうもり傘
- ・ 歩道
- ・ 牛鍋
- ・ 洋服
- ・ 洋館
- ・ 石橋 など

近世との比較という点から、また特徴を見つけ出せない生徒のために、以下の近世のイラストを見せて、どう変わったかを提示してみるのもよい。



教科書p.112~113より

②近現代①の絵の印象をあげてみよう。

- ・大きく時代が変わった感じ
- ・和風から洋風が変わった
- ・武士がない
- ・江戸が町から都市へ変わった
- ・道路が大きくなり交通が発達した など

③近世の特色は近現代でどうなったか予想してみよう。

<近世>	<近現代>
武士の世の中	→終わった。誰の世？
鎖国政策	→終わった。開国へ
身分制度	→なくなった？
社会の混乱	→幕府が減び、新政府へ
文化・産業面	→大いに発達した
泰平の世	→外国と戦争が始まった
外国船の接近	→貿易を行った

従来、この近世から近代への変革の表は、明治維新の学習の導入時に、教師の方から近世の特色を提示して質問していたが、今回 2

枚の写真を並べ、比較したことで、生徒自身が近世の特色を想起し、近現代の変革の概要まで予想することができたことには正直驚いた。

(3) 近世から近現代にかけどのようなことがあったか予想を立ててみよう。

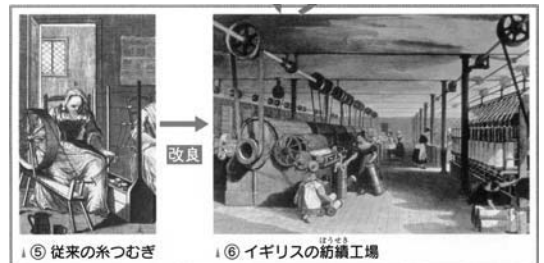
①近世から近現代にかけて、一体何があったのだろうか。予想を立ててみよう。

- ・ペリーがやってきた
- ・開国した
- ・戦争がおきて江戸幕府が滅亡した
- ・坂本龍馬や西郷隆盛が活躍した
- ・明治維新がおきた など

本単元は、小学校時代に履修していることもあり、あらましを予想できた。しかし、ヨーロッパやアメリカの近代化というキーワードは出にくいので、以下の写真を提示してみた。



教科書p.138の写真より



⑤ 従来の糸つむぎ

⑥ イギリスの紡績工場

教科書p.139の写真より

- ・外国で産業革命がおきた
- ・イギリスの工場で機械化が進んだ
- ・日本よりも早くいろいろなことが発達した など

②これは1924年にとられたその後の東京の写真です。気づいたことをいってみよう。



教科書p.184~185タイムスリップ！近現代②

- ・さらに発達している
- ・道路が大きくなって電車が走っている
- ・レンガづくりの大きな建物
- ・自転車 ・工場の煙 ・電柱 など

③さて、この間には一体どんなことがあったのだろうか。

- ・中国やロシアとの戦争
- ・文化や産業がさらに発達した
- ・条約改正 など

開国、明治維新の頃に比べると、予想はあまり出てこなかった。小学校で日清・日露戦争、条約改正等を学習したようだが、あまり



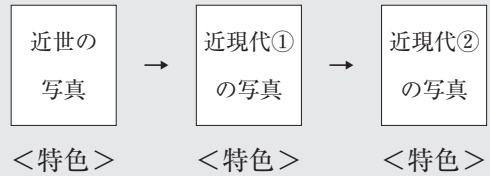
教科書 p 167の写真より

覚えていなかった。そこで、ここではキーワードの一つ「国会開設」に関する写真を提示した。

- ・日本に初めて議会ができた
- ・大日本帝国憲法がつくられた など

(4) 近現代のようすをみて、疑問に思う点や調べてみたいことをあげてみよう。

ねらい



<学習課題>

下記の①①②③④を考える

(板書例)

①欧米諸国の衝撃と日本

- ・なぜペリーは日本にやって来たのか
- ・なぜ江戸幕府は滅んでしまったのか
- ・なぜ外国は文化が進んでいたのか
- ・日本に来た外国はどんな力があつたのか
- ・欧米諸国の衝撃とはどんなものか

②新しい価値観のもとで

- ・明治維新は何の目的で行われたのか
- ・明治維新で何がどのように変わったか
- ・明治維新のうまくいった点と失敗した点
- ・国民は明治維新をどう思ったか

③国会開設の歩み

- ・なぜ、どのようにして国会ができたのか
- ・どうしてもっと早く国会ができなかったのか
- ・国民は国会のことをどう思ったか

④アジアの日本から世界の日本へ

- ・なぜ日本は外国と戦争をしたのか
- ・国民は戦争をどう思ったか
- ・どうやって日本は産業や文化を発展させていったのか

(5) 今日の学習を終えて

近世から近現代にかけて、日本は大きく変わったことが「タイムスリップ」の絵からよくわかった。また、みんなと話し合いながら、小学校で習ったことを少しずつ思い出した。坂本龍馬や西郷隆盛のことなど詳しく知りたかったと思った。最後に、みんなでたくさん疑問点を出しあったので、これから近現代のことをいろいろ調べるのが楽しみだ。

鎖国をしていた日本が、開国をして大きく変わっていったことがわかった。近現代は、外国の影響を強く受け、日本は成長していったんだと思った。でもぼくは、どうして日本が中国やロシアなどと戦争をしなくてはいけなかったのかがわからないから、それをよく調べたいと思った。

4

評価について

評価については、今回の授業案が本単元の導入部にあたるため、ワークシートを中心に、おもに関心・態度の面で行いたい。ワークシートの記入では、自分の考えは鉛筆で、みんなの意見は色ペンでという点を習慣化させている。それぞれ学習活動の(1)からどれだけたくさんのことがらを記入することができるか。とくに(4)の学習課題の設定では、政治面だけではなく、文化・社会経済面から、

為政者側だけではなく、国民や外国の立場から設定ができているかどうかをみたい。

5

終わりに

今回のように、導入で「タイムスリップ」を活用して、時代を大観し、生徒自ら学習課題を設定させると、意欲的に調べ学習に取り組むことを実感した。単元が大きいだけに意欲を持続させる有効な手段だと考える。

このあとの授業の展開であるが、わたしは小單元ごとに生徒が出しあった学習課題をもとにさらに大テーマをつくり、それぞれが教科書を中心に調べ学習を行い、課題を解決していく学習を行っている。この大テーマは、たとえば、2節「新しい価値観のもとで」では「明治維新の政策をランキングしよう」など歴史的事象を政治、文化・社会経済の流れから、また、為政者・国民・諸外国と、さまざまな立場から多面的・多角的に考察・理解できるよう設定している。

この大テーマに取り組むことで、導入で生徒が設定した学習課題(明治維新の目的・結果・長所・短所・国民の視点など)が解決されることをねらいとしている。また、学習内容の定着をはかるために、「中学生の歴史ワークー身につく基礎・基本ー」(上巻・下巻 帝国書院)を活用されることを進めるとよい。

大テーマの例

- (1) 「もしもあなたが幕府の役人だったら、開国・攘夷のどちらを選択しますか」
- (2) 「明治維新の政策をランキングしよう」
- (3) 「日本初の憲法・国会。あなたの評価は？」
- (4) 「日本の近代化の歩みをさまざまな面から評価しよう」